

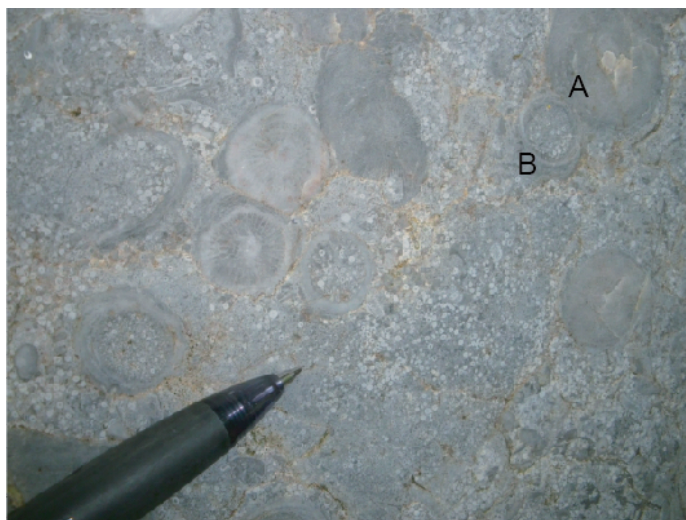
# 秋吉石灰岩の下部石炭系サンゴ化石

発表者② 生物圏変遷科学分野 1年 植田 律

西南日本の山口県，広島県，岡山県にかけて石灰岩台地が点在する。その中で山口県中央からやや西に位置する秋吉台周辺には，塊状石灰岩層で特徴づけられる秋吉石灰岩層群が分布する。これまで秋吉石灰岩層群に関する多くの地質学的研究が行われてきた。Ozawa (1925) はフズリナ・サンゴ化石の研究から化石帯を設定し，地形的に高い所に古い化石帯が，低い所に新しい化石帯が分布していることから，秋吉石灰岩層群は横臥褶曲し，大規模に逆転しているとした。太田 (1968) は，秋吉石灰岩層群の層相は礁性堆積物と礁湖性堆積物に分けられることから，秋吉石灰岩層群は生物礁複合体として形成されたことを明らかにした。Sano and Kanmera (1991) は，秋吉石灰岩層群が礁-海山複合体の海溝充填堆積物との衝突時の崩壊を受けていることを明らかにし，秋吉石灰岩の逆転層序が崩壊物の転倒・回転で説明できるとした。生層序学的研究に関しては，Ozawa (1925) 以来，特にフズリナ類に基づき詳細な化石帯が設定されている。それらによれば，秋吉石灰岩層群は石炭紀前期からペルム紀中期までを示すが，フズリナを全く含まない最下部石灰岩層が堆積した時期に関しては明らかになっていない。しかし近年，秋吉石灰岩層群最下部からそれまで産出報告の無かったサンゴ化石が報告された (Niko, 2005 ; 2006) 。また，石炭紀における秋吉石灰岩層群の古生物地理学的位置に関しては十分に議論されていない。そこで本研究はサンゴ化石を用いて，秋吉石灰岩層群の堆積年代と，その古生物地理学的位置について議論しようとするものである。

八月前半に行った野外調査の結果をここに報告する。調査地域は，山口県美祢市美東町大久保地域で，この地域は，秋吉台の中でも下部石炭系の石灰岩層が最も広く分布する。平原 (ひらばる) の集落から御器伏 (ごきぶせ) 山の北側を通る林道沿いや，鳶の巣 (とびのす) の集落から北西に延びる林道沿いに露頭が点在する。大田層群の砂岩やチャートが南側に，秋吉石灰岩層群の石灰岩および凝灰岩が北側に分布する。大田層群と秋吉石灰岩層群の境界は露出がなく観察できなかった。秋吉石灰岩層群の石灰岩は全体として塊状無層理である。石灰岩層の南側に凝灰岩または凝灰質頁岩層が分布している。凝灰質頁岩は赤色で，一部土壌化している。石灰岩層の走向は主に東北東-西南西方向で，傾斜は南東側に30-80°程度である。傾斜方向から見かけ上，南側が上位になる。凝灰岩に近いところでは，石灰岩中にサンゴやウミユリなどの生砕物が豊富に含まれている。また，鳶の巣の林道の北方では，結晶質石灰岩の露頭が見られる。鳶の巣の露頭に四放サンゴのコロニーが観察できるところがある。

(座長；康 義英)



石灰岩中の四放サンゴのコロニー  
A : *Nagatophyllum satoi* Ozawa  
B : *Hiroshimaphyllum enorme* (Ozawa)

## 次回のお知らせ

日時：9月30日 (水) 17時より

発表者：磯和幸延(生物圏変遷科学分野 M1)  
川村好毅(地圏変遷科学分野 M1)

座長：千葉 妙 (地球変動科学分野 M2)  
西宮ゆき (岩石学分野 M2)

## 連絡先

福田 美保 (地圏変遷科学 D1)  
mh\_fukud@geol.tsukuba.ac.jp

上松 佐知子 (生命環境科学)  
agematsu@geol.tsukuba.ac.jp